



背景・目的

2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）で合意された目標（WSSD2020年目標）の達成とポスト2020年目標の策定に関する議論の先導に向け、化学物質のライフサイクル全体を通じた環境リスクを低減する取組を強化するとともに、2023年頃の化審法見直しに向け今後の化学物質管理の在り方やリスク評価手法について検討を行う。さらに、WSSD2020年目標のための国際戦略（SAICM）に重点分野として位置づけられた途上国の能力向上のための支援について、環境大臣間で署名した環境協力の覚書に基づき現地での講習等を実施する。

事業概要

①ライフサイクル全体のリスクの最小化

化学物質のライフサイクル全体の動向（フロー・ストック）の把握を進め、ライフサイクル全体でのリスク評価を推進する。

②化学物質審査等の規制改革の推進

2023年頃の化審法の見直しに向け、新たなリスクに対応するための仕組みの構築等、今後の化学物質の在り方に係る課題について検討を行う。

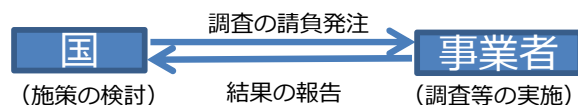
③化学物質対策国際連携の推進

我が国の知識・経験や手法を伝達してアジア諸国における化学物質対策に資するため、日中韓化学物質管理政策対話や、インドネシア・ベトナムに対する化学物質管理施策に係る講習を行う。

④上市後化学物質のリスク評価の加速化等

既存の試験法では有害性評価が困難な物質について試験法の検討等を実施することにより化審法に基づくリスク評価を加速化する。

事業スキーム



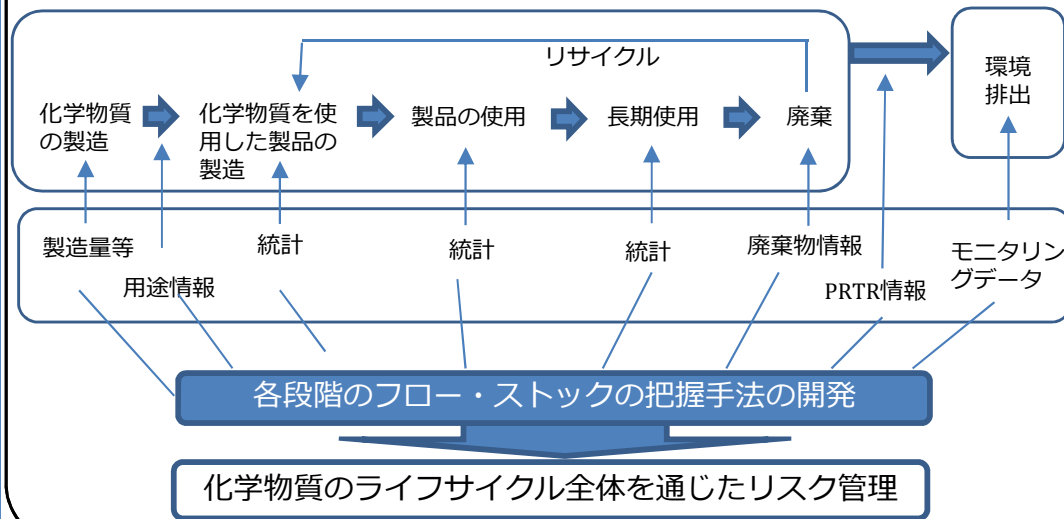
期待される効果

化学物質の製造、使用、廃棄などライフサイクル全体を通じた環境リスクの低減。

ライフサイクル全体のリスクの最小化

目的：化学物質の製造、使用、廃棄等の各段階におけるフロー・ストックを把握し、化学物質のライフサイクル全体を通じたリスク管理を行うことにより、環境リスクの低減を図る。

事業内容：化学物質の製造・輸入量・用途情報、化学物質を使用した製品の産業統計、PRTR 情報、モニタリングデータ等の化学物質に関わるビッグデータを活用し、化学物質のライフサイクル全体を通じたフローやストックを把握する手法の開発を進めるとともに、プラスチック中の有害な化学物質について当該手法を試行し、リサイクル段階を含むライフサイクル全体でのリスク評価を実施する。



化学物質審査等の規制改革の推進

- 2023年頃の化審法の見直しに向け、以下の課題について検討を進める。
- 新たなリスクに対応するための情報収集・課題抽出の仕組みの構築
- リスク評価のための排出係数の見直し
- 製品中に含有されている化学物質のリスク評価・管理手法の検討